



新型コロナウイルス感染拡大で 大打撃の外食業界

外食業界全体が、かつてない危機に直面しています。

ステーキ専門店「いきなり！ステーキ」を展開する、東証1部上場のペッパーフードサービス（東京都）は7月、運営する114店舗（予定）の閉店を決めるとともに、200名程度の希望退職者募集を発表しました。

コロナ禍における未曾有の売上急減は、マクドナルドやケンタッキーといった一部の“勝ち組”を除き、外食各社の経営体力を確実に奪っています。大手ですら、大がかりなリストラを余儀なくされるほど追い込まれているのですから、中小・零細業者を取り巻く環境はさらに深刻です。足下では、新型コロナウイルスの影響を受けた経営破綻が相次いでいます。

地元で親しまれるもコロナで客足が激減

業歴40年を超える「梁山泊」（横浜市金沢区）は、京急電鉄本線・能見台駅近くで中華料理店を1店舗経営する零細業者でした。地元住民や近隣の高校に通学する生徒を中心に親しまれ、ランチからディナー、懇親会まで幅広い需要を取り込んでいました。

しかし今年2月以降、国内での新型コロナの感染拡大により客足が激減し、キャッシュフローも急速に悪化。各種の固定費負担も重荷となるなか、緊急事態宣言期間中の5月7日から臨時休業となり、7月29日に横浜地裁より破産開始決定を受けました。

ギリギリの経営に追い打ちをかけられる

2012年に設立された「ミトラライフデザイン」（神奈川県相模原市）は、JR相模線橋本駅近くに居酒屋を2店舗経営していました。直近の2019年12月期には年売上高約1億2700万円を上げていましたが、近隣他店との競合激化に加え、人件費や出店費用の負担が従前から重荷になっていました。ギリギリの経営が続くなかで、ついには新型コロナの影響による営業自粛が追い打ちとなり、事業継続の見通しが立たないまま、6月1日に横浜地裁相模原支部から破産開始決定を受けました。

秋口以降さらに厳しい状況になる可能性も…

帝国データバンク調べによれば、400社を超える「新型コロナウイルス関連倒産」のうち、最も多い倒産が今回取り上げた外食業界です。すでに、コロナ以前の2019年時点で過去最多の年間倒産件数を記録していましたが、コロナ禍でさらに拍車がかかり、2020年もこれを上回るペースで倒産が発生しています。

もともと外食業界は、社長の高齢化や後継者不足といった「内的課題」を抱える企業が少なくありませんでした。このほか、消費者の根強い節約志向、原材料費の上昇、改正健康増進法の施行、長梅雨や大型台風等の天候不順といった「外的要因」も大きな影響を及ぼしており、逆風は秋口以降、さらに強まりそうです。 ●

ないう おさむ 2000年に株式会社帝国データバンク入社。本社情報部、産業調査部、東京支店情報部を経て2018年10月より現職。入社以来一貫して、倒産企業の取材、倒産動向のマクロ分析を手がける。専門は倒産動向分析、企業再生研究。